

12月
定例会



VOL. 43

いかた 議会だより

平成28年(2016年)2月発行

編集 伊方町議会

議会だより編集委員会

電話 0894-38-2662

町内の各小学校で
1月24日(伊方小・水ヶ浦小・九町小) 1月30日(三机小) 1月31日(大久小・三崎小)に
学芸会が開催されました。



九町小



三机小



三崎小



水ヶ浦小



伊方小



大久小

今回の主な内容

第43回定例会の動き・主な決定事項	2P
いっぱん質問	3P~6P
成人式・委員会報告	7P
議会日誌	8P

12月定例会の動き

第43回定例会は、
12月16日～18日開催

条例4件、補正予算8件、契約1件、
その他4件
(すべて原案のとおり可決される)

【主な決定事項】

条例

三机小学校校舎外部改修基金条例
制定

三机小学校校舎外部改修工事の
財源に充てるため、本条例を制定

伊方町税条例等の一部を改正する
条例制定

個人町民税の納期前納付に係る
報奨金制度の見直し及び地方税法
施行規則等の一部を改正する省令
の公布に伴い、本条例の一部を改正

伊方町国民健康保険税条例の一部
を改正する条例制定

行政手続きにおける特定の個人

を認識するための番号の利用等
に関する法律の施行に伴う関係法律
の整備等により、本条例の一部を
改正

伊方町乳幼児及び児童医療費助成
条例の一部を改正する条例制定

現行の乳幼児及び児童医療費の
助成を拡充し、安心できる子育て
環境の一層の充実を図るため、本
条例の一部を改正

改正前の児童医療費助成は、
未就学児は全額、小中学生は入
院の場合のみに限られていた。
平成28年4月1日から子ども
に係る医療費全てが助成の対象
となる。
(対象者は、0歳から義務教育
終了までの者)

契約

伊方町中央公民館原子力災害対策
施設整備工事(設備工事)請負契
約の締結

契約金額 7,765万2千円
契約相手 株式会社
ダイキアックス

その他

伊方町集会所の指定管理者の指定

(施設の名称)
大浜集会所ほか45集会所
(指定管理者)
大浜区長ほか45名

(指定期間)

平成28年4月1日から
平成33年3月31日まで

伊方スポーツセンターの指定管理
者の指定

(指定管理者)
伊方サービス株式会社
(指定期間)
平成28年4月1日から
平成33年3月31日まで

議会運営委員会の閉会中の継続調査
の継続を決定

平成27年度補正予算

(単位：千円)

会計名	補正額	補正後
一般会計(第3号)	534,420	10,537,048
国民健康保険特別会計(第2号)事業勘定	21,438	2,194,913
直営診療施設勘定	△4,244	601,646
後期高齢者医療保険特別会計(第1号)	△187	167,990
介護保険特別会計(第2号)	7,068	1,240,303
介護サービス特別会計(第1号)	△1,052	13,377
公共下水道事業特別会計(第3号)	373	342,369
小規模下水道事業特別会計(第3号)	47	82,667
特定地域生活排水処理事業特別会計(第3号)	200	39,271

一般会計補正予算の主な内容

(単位：千円)

事業名	場所	事業概要	予算額
消防ポンプ格納庫新築工事地質調査 業務委託	4箇所	格納庫新築工事設計に伴う地質調査 第2分団4部(亀浦) 第4分団3部(畑) 第5分団3部(大成) 第5分団4部(鳥津)	6,221
松集会所屋上防水修繕工事	松	屋上シート防水の改修	2,052
三崎テニスコート改修工事	三崎	テニスコート、フェンス等の改修	13,500
伊方学校給食センター設計業務委託	旧有寿来小グラウンド	給食センター新築工事に伴う設計委託	12,204

原子力発電対策特別委員会の閉会
中の継続調査
議会閉会中における委員会活動
の継続を決定

いっぱん質問



中村明和議員

伊方町シルバー人材センターの開設について

問

伊方町の基幹産業である農業、漁業を取り巻く環境は年々厳しさを増し、若者の農業、漁業離れで後継者不足が目立っているが、高齢者の皆さんが頑張っておられ、特に近年は80才を超える方々がこの部落でも元気で働いている。

しかし、町の農漁業の将来を見据えた対策を早く打ち出さなければ、労働力を失い農漁業が廃れてしまうのではないかと大変危惧している。

町内には、定年退職の年代になってもまだまだ働きたいと元気なシニアが多くいると思う。

そうした方々に高齢者の皆さんの手助けの為に臨時的かつ短期的で簡単な作業を提供できる「シルバー人材センター」の開設が必要であると考えている。そこで次の2点について伺います。

- ①伊方町内で定年退職をされ75歳までの無職の方の人数はどのくらいか。
- ②町として基幹産業の担い手不足と高齢化対策をどのように考えているか。

答

伊方町のシルバー人材センターに関しては平成26年6月の一般質問で答弁したとおり、合併前の瀬戸地域で組織された「シルバー瀬戸」を町内全体で事業展開ができるよう伊方町社会福祉協議会に働きかけ、その結果、平成27年4月1日をもって「シルバー瀬戸」の活動範囲を拡大し、伊方町内全域を対象とした「シルバー伊方」に体制を改め事業展開をしているとの報告を受けている。

現在の会員数は町内全体で25名（伊方地域2名、瀬戸地域20名、三崎地域3名）で新たな会員の確保が進んでいない状況である。

しかし、今後、シルバー人材センターに対する期待感も益々大きくなると思われるので、高齢者が持つその力を十分に発揮できる環境を整え、いつまでも生き生きと活躍できる社会の実現に向けて、関係団体等の連携のもと取り組む所存である。

さて、①点目の質問であるが、人数の把握が非常に難しいため年齢が60歳から75歳までの方で、年金収入のみ若しくは無収入の方という条件で抽出すると、およそ1,000人が該当する。

②点目の質問であるが、本町の基幹産業である第1次産業の就労状況を見ると、就業者の高齢化が着実に進行していることから、地域産業の振興を図り、存続していくためには、担い手としての後継者や新規就業者等の育成確保が最も重要な課題と捉えている。

町としては、国や県の事業を活用しながら就農研修後、地元で就農した者に対して、その研修資金を補助する「就農研修資金償還免除事業」や、就農後の経営が安定するまでの間、その経営を支援する「青年就農給付金事業」を実施している。

また、町単独の施策として、国や県に先駆けて、農業漁業に新たに取り組む「新規学卒就業者」や「新規参入者」に対する給付金制度の「新規就業者支援対策事業」を創設して取り組みを行っている。

漁業の分野においても、

国や関係団体で農業と同じ様な支援を行う「新規漁業就業者総合支援事業」について、検討されていると聞き及んでいる。

一方、高齢化の農家・漁家に対しては、経営の安定化や作業の省力化・効率化等による負担軽減の支援を行っている。

これからの担い手不足を補うための労働力確保の取り組みとしては、県内の大学との連携により、学生ボランティアによる農作業支援の受入れ体制を構築するほか、JAが中心となって取り組む「西宇和みかん支援隊」の事業や農家や求職者を対象とした無料職業紹介事業等により、労働力確保に向けた対策を展開することとしている。（町長）



プール清掃



トイレ清掃



肥料まき

人材センター（シルバー伊方）の活動状況

地域の活性化と観光振興について

問 山下町政3期目の公約に、観光振興を掲げていたと思うが、私の目にはその取り組みが見えてこない。

昨年4月に三崎地域に観光交流施設「はなはな」がオープンされたが、それは三崎の一部のみで町全体の観光振興には結びついていないと私は思う。

町内には「瀬戸内海国定公園の佐田岬灯台」「豊予海峡と豊後水道と合流する速水の瀬戸」「瀬戸アグリ体験農業」「三机湾の須賀の森公園」「亀ヶ池温泉」など、県内どこにも負けない観光資源がある。

これらの観光資源を核とし、地域の自然、文化、歴史、伝統など地域固有の資源と結びつけ、魅力ある地域づくりと連動した観光地づくりを進めていけば、地域の活性化にも役立つ観光地になると考えている。

そこで、次の3点についてお伺いする。

- ①伊方町の地域活性化の大きな柱として、今後の観光振興にどのように取り組まれていくのか。
- ②今まで旧3町間の地域おこしグループ・ボランティアグループ・若者、青年団グループと年何回ぐらい行政との会合をもたれているのか。
- ③合併されてこれまで新しい町づく

り、地域おこしグループがどのくらい出来たのか。



三机湾の須賀の森公園

基地訓練艇潜特殊の特攻湾珠真
の一角に須賀公園の一角に
建設された碑が九軍神の碑

答

平成25年6月の招集あいさつの中で伊方原発の停止に伴う点検作業等の減少から町内の民宿業や商工業に大きな影響が生じており、将来を含め、町内全体で景気の回復や経済成長を促進するためには、伊方発電所に大きく依存したこれまでの地域振興策を見直し、新たな産業の創造、雇用の創出、観光資源の有効活用等、改めて伊方町の特性に応じた地域資源を活かしたまちづくりに取り組んで行く必要があるのではないかと述べ、その後、『佐田岬観光まちづくり実施計画』を策定し、平成26年度から計画の認知と理解のための取り組みや、関係機関との連携強化、更に実践と情報発信のための取り組み等、平成28年度まで3ヶ年計画を現在、展開しているところである。

さて、①点目の質問であるが、観光産業が持続的に継続し成功を収めるためには、本町に「訪れた人」が来て良かったと実感でき、再びその地を訪れてみたいと思ってもらえること、また、その体験を良かったこととして周囲に伝えたいくなるような気持ちになって頂くこと、このような気持ちを抱いていただけるかどうか、非常に重要であると思っております。

そのために、地域に根ざした「暮らす人」が地域に誇りを持ち、心のこもった質の高い、伊方町にしかない特色あるサービスを提供するための環境づくりが重要である。このことから、町が進めている「佐田岬観光まちづくり計画」において、人づくり・地域づくり・観光資源の磨き上げ、この3点を主眼におき、地域住民が主体となった取り組みにより観光振興に繋げていきたいと考えている。

②点目の質問であるが、行政と地元等の会合回数については、観光まちづくり計画における関係9団体との協議が88回。また、これ以外の関連団体等の協議が27回である。今後においても地元や住民との協議の場、そしてまた意見集約や人材育成の場として、積極的に開催することとしている。

③点目の質問であるが、「佐田岬観光まちづくり計画」を進めていくためには、地元や地域住民の積極的な

参加により、主体的に実施できるよう意識の醸成等を行いながら、新たな団体にも参加して頂く必要があると考えている。

このことを踏まえ、町としては積極的にPR活動等を行い、これまでに13団体が「佐田岬観光まちづくり計画」等に関わる団体として新たに発足している。

更に詳しくご紹介すると、

佐田岬灯台関連(1団体3チーム)
南予博関連(4団体)
ソーシャルツアー関連(1団体)
ヘルスツーリズム関連(1団体)
生活改善グループ関連(1団体)
きなはいや伊方まつり関連(1団体)
その他(1団体)

また、それ以外の地域おこし団体で継続活動している団体は22団体となっている。(町長)



瀬戸内海国定公園の佐田岬灯台



篠川長治議員

伊方町の子育て世代支援等について

問 安倍晋三首相は、アベノミクス第2ステージで新たな3本の矢を発表し「第一の矢」希望を生み出す強い経済。「第二の矢」夢を紡ぐ子育て支援(合計特殊出生率を1.8に回復)。「第三の矢」安心につながる社会保障。を掲げ、この新三本の矢を実現する具体策に取り組んでいく。

伊方町の平成20～24年の合計特殊出生率は1.7で、県内では4番目に高く、八幡浜保健所管内では大洲市の1.72に次いで高くなっている。

しかし、出生者数は平成11年までは年間100人前後で推移していたが、平成12年からは80ないし90人台となり、平成17年以降は60人前後と減少傾向である。ちなみに平成25年は58人、平成26年は38人となっている。

そこで、私は次のことを提言する。若い世代が、子どもを産み育てることを選ぶ環境づくりのためにも、

児童医療費助成は、入院に係る保険医療に限る一部負担金に相当する額の助成制度を小中学生から高校生まで引き上げることが提言する。

答

伊方町の子育て世代支援等についてであるが、議員が提言された「乳幼児及び児童医療費の助成」については、これまでにも段階的に助成範囲を拡充するための見直しを行っており、直近では平成24年度に6歳から15歳までの小中学生の入院給付を助成対象とする改正も行っている。

今回、議員は、若い世代の方々が、町内で子どもを産み育てることを選ぶ環境づくりのためにも、小中学生から高校生までの医療費を助成するように、との提案であるが、町では、現在、国が進めている地方創生の動きに合わせ「伊方町人口ビジョン」及び「伊方町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定作業を行っている。

その戦略を展開していくための大きな柱の一つとして「若い世代が本町で、子どもを産み育てることを選ぶ環境づくり」という基本目標を設定し、結婚、出産・育児、教育、地域の子育て環境の充実等について、総合的に推進することとしている。

そこで、提案のあった、乳幼児及び児童医療費助成制度の充実については、今年度とりまとめる総合戦略にその内容を盛り込むこととしてい

る。来年4月1日からは、義務教育終了まで、つまり中学校卒業までの児童生徒の医療費の完全無料化を図るべく、条例改正案を今定例会に提案している。

議員は、高校卒業までの無料化の提案であるが、今回は、中学校卒業までの無料化で考えているのでご理解願いたい。
(町長)

平成28年4月1日から「乳幼児及び児童医療費の助成」条例が一部改正され、児童医療費の助成対象が拡充されます。

①助成対象者

- (1) 伊方町内に住所を有する者
- (2) 0歳から中学校卒業までの者
(出生の日から15歳に達する日以後における最初の3月末日までの間にある者)

②助成内容

- (1) 上記対象者は、平成28年4月1日から**(医療費が無料)**となります。

※なお、詳しい内容は役場(福祉課)へ問い合わせください。

伊方発電所再稼働に関する安全性等について

問

四国電力は大地震による原発事故を想定して、「全交流電源が喪失、原子炉を冷やす一次冷却水の配管が大きく破断、炉心の溶融貫通が起きる事故」最も厳しい位置付けでシミュレーションしている。

伊方町議会の原子力発電対策特別委員会は、平成27年7月29日から9月25日の間で4回に渡り「伊方原子力発電所3号機における新規制基準適合性審査結果」を始め、「再稼働に対する政府の方針」「安全対策」「伊方地域の緊急時対応」等について、原子力規制庁及び資源エネルギー庁、内閣府、四国電力等からそれぞれ説明を受けた。

私は、この説明を受け四国電力が行った「原発事故想定シミュレーション」について次のことをお伺いする。

①代替格納容器スプレイポンプ作動に要する時間はシミュレーションでは49分とのことであるが、スプレイ水による冷却前に炉心は溶け落ちてしまっているのではないかと。

②事故発生後から90分後に溶け落ちた核燃料は、原子炉容器の底を突き破り、格納容器の底へ落ちて留まっているとのことであるが、この状況で格納容器の損傷は食い止められるのか。

③代替格納容器スプレイポンプに加

えて加圧ポンプ車が使用できると思うが、この際、ポンプ車は使用しないのか。

④(1)原子炉格納容器への注水量は約4000m³で炉心冠水と認識しているが、間違いはないか。

(2)格納容器へ約4000m³炉心冠水した時の水面から格納容器底部までの深さはどれくらいになるか。

(3)原子炉格納容器底部から大型配管破断面上端までの容積はどのくらいか。

⑤事故発生から約90分後に原子炉容器破損、溶融炉心が原子炉格納容器内下部への落下。

この溶融炉心、落下時間を遅らせるまたは防止するために、原子炉容器への注水につながる原子炉格納容器への注水対策を講ずることが重要であると考えるがいかが。

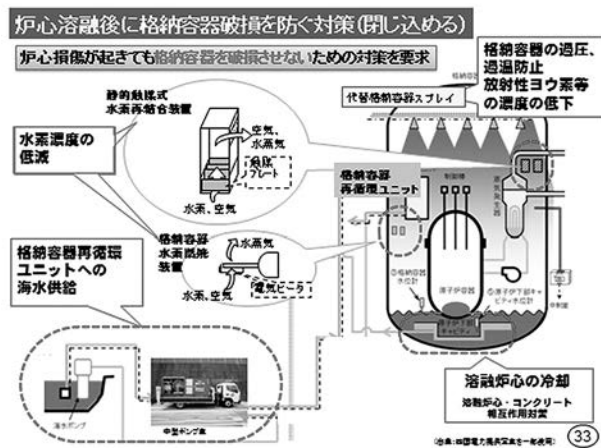
⑥伊方発電所の再稼働にあたって、万が一、人の及ばない自然災害との複合災害でも放射性物質は原子炉格納容器内に閉じ込めることに失敗すれば、伊方町の農産物、水産物等全てが風評被害にさらされる。

発電所への対応について町長の覚悟と明解な答弁を求める。

答

伊方原子力発電所3号機の安全審査に係る様々なトラブルを想定した事象は、マスコミが報じた情報に基づく発言と推察するわけであるが、原子炉の構造に関する専門的な内容であり、また発電所の機

密情報にも関わることが懸念されるので、これからの内容は、原子力規制庁からの回答であることをご承知願いたい。



①原子炉下部キャビティには、約1.3m程度の水位が確保できていることから、原子炉容器が破損して、溶融した炉心が原子炉下部キャビティに落下することはない。

②格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を実施することにより、原子炉格納容器からの熱の除去を確立させていることから、原子炉格納容器の破損を防止する設計であることを確認している。

③中型ポンプ車、加圧ポンプ車等を用いた代替格納容器スプレイに関する

手順は、技術基準上全ての要求事項を満たすことや、全てのプラント状況において使用することは困難であるもののプラントの状況によっては事故対応に有効な対策として整備されている。このような対策は、水源を特定しない注水手段として有効であるものの送水ホース及びポンプ車等の運搬、接続作業に時間を要することから、事故時の対策としての有効性評価では使用していない。

④(1)4000m³とは、原子炉容器内に溶融炉心が残存の場合の水量ではなく、格納容器スプレイを停止するための原子炉格納容器内の水量であり、原子炉格納容器内の重要機器及び重要計器を水没させない高さに相当する水量である。

(2)約4000m³注水した場合、水面から格納容器底部までの深さは約8.1m、約6000m³注水した場合の水面から格納容器底部までの深さは約10.3mとなる。

(3)容積については把握していないが、約6000m³注水した場合、原子炉格納容器内の水は原子炉容器破損した際にできる原子炉容器下部の開口部から、原子炉容器内へと流入し、炉心発熱有効長の半分の高さまで冠水することになる。

⑤「原子炉格納容器への注水対策」を講ずることは重要である。

⑥私としては「規制基準を満たしているので絶対に安全」といった安全神話に陥ることがないよう、今後

においても、絶えず最新の知見に基づいて規制基準を見直し向上させていくことや事業者による自主的な安全性の向上、ヒューマンエラーの防止など、世界最高水準の安全性確保について不断に追求していくことが、私に課せられた最大の責務であると考えている。

また、万が一、伊方発電所がどのような災害に見舞われたとしても、福島事故のような大量の放射性物質を環境中に放出するような事態は絶対に招いてはならない、事故は起こしてはならない。との強い決意を持って、私に課せられた責務を果たすべく、国及び事業者に対し、徹底した対応を求めていく覚悟である。

(町長)



伊方原子力発電所

1月3日（日）伊方町生涯学習センターにおいて、伊方町成人式が開催されました。

この日、出席した88名の新成人の皆さんは、新しい社会を担う若者として希望を胸に決意を新たにしました。



新成人代表謝辞 竹本流星(大久)



祝辞を述べる吉谷議長



平成28年 伊方町成人式



私の好きな歌に「為せばなる為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」という歌があります。これは人間、その気になれば出来ないことはないということです。人間その気になるか、ならないか気の持ちよう一つだと私は思っております。夢と希望にあふれた輝かしい未来があります。頑張って頂きたいと思えます。「二十一世紀の主演として、揺るぎない信念と決意を持って、ふるさと伊方町を誇りに大きく羽ばたいてください。」とお祝いの言葉を述べました。

委員会（協議会）報告

月 日	委員会（協議会）	概 要
12月4日	議会運営委員会	第43回定例会の運営について
12月11日	議員全員協議会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 条例の制定等について 2. 伊方町中期財政見通しについて 3. 第3次伊方町行政改革大綱に基づく主要項目の実績報告について 4. 機構・組織の見直し（案）について 5. 伊方町人口ビジョン及び伊方町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について 6. 第2次伊方町総合計画の策定について 7. 伊方町過疎地域自立促進計画の策定について 8. 八幡浜漁協経営改善支援について 9. 特産品開発の状況について 10. 伊方町集会所の指定管理者の指定について 11. 伊方スポーツセンターの指定管理者の指定について 12. 伊方町学校給食センターの統合について 13. 平成27年度伊方町一般会計補正予算（第3号）概要 14. その他

1月24日（伊方小・水ヶ浦小・九町小）、学芸会は雪の降る中での開催となりました。寒い中でも子供たちの演技に圧倒され、寒さも何処かへ吹き飛ばしてしまいました。

1月30日（三机小）、1月31日（大久小・三崎小）、天気にも恵まれ、長いセリフを一生懸命覚え頑張って披露してくれました。

どの学校も短い練習期間でしたが、各学年趣向を凝らした演技を披露されました。保育所の年長児さんから6年生までお疲れ様でした。いい思い出がまた1つ出来ました。



九町小



大久小



伊方小



三崎小



三机小



水ヶ浦小

議 会 目 誌

- | | | | |
|-----------|--------------------------|--------|--------------------------------|
| 11月10～12日 | 部落解放研究第49回全国集会（大分） | 12月13日 | 人権フェスタ2015 |
| 11～12日 | 第59回町村議会議長全国大会（東京） | 16日 | 第43回定例会 |
| 13日 | 全国過疎地区自立促進連盟第46回定期総会（東京） | 18日 | 第43回定例会 |
| | 定期監査・例月現金出納調査（監査委員） | 21日 | 八幡浜施設事務組合議会 |
| 14日 | 松野町制60周年記念式典 | 1月3日 | 成人式 |
| 20日 | 県後期高齢者医療広域連合議会第3回定例会（松山） | 15日 | 定期監査・例月現金出納調査（監査委員） |
| 20～23日 | 第67回全国人権・同和教育研究大会（長野） | 18日 | 国際交流協会理事会 |
| 25～26日 | 全国原子力発電所所在市町村協議会全体会議（東京） | 19日 | 県町村議会議長会第2回全員協議会（松山） |
| 12月4日 | 議会運営委員会 | 28～29日 | 議長会研修会（国際文化アカデミー研修）（滋賀） |
| 10日 | 例月現金出納検査（監査委員） | 2月4日 | 少年式 |
| 11日 | 議員全員協議会 | 4～6日 | 町人権対策協議会先進地視察・第30回人権啓発研究集会（大阪） |
| | | 7日 | 成人講座 |